

人や自然にやさしいエコガーデンをめざして

— 市民がつくる市民のための地域環境情報誌 —

エコライフみしま



知っていますか？

市の鳥「カワセミ」市の木「イチョウ」市の花「三島桜」



第 22 号
2013/10/15

- 特集「三島と富士山」
- 知っていますか？「三島市章の成り立ち」
- 環境活動紹介(北上地区エコリーダーの地域環境活動)

三島と富士山

2月23日(富士山の日)に行ったソーラークッカー作り



クイズ：

富士山は「①」の対象と「②」の源泉として世界文化遺産に登録されました。

①と②に入る言葉はなんですか？

★祝・富士山世界文化遺産登録★

2013年6月、富士山は日本で17番目（文化遺産では13番目）の世界遺産として登録されました。「信仰の対象と芸術の源泉」として登録された富士山の構成資産は、残念ながら三島にはありません。しかし、三島市民は昔から富士山を身近に感じながら生活を送っています。第22号のエコライフみしまでは、この富士山の世界文化遺産登録を記念して、「三島と富士山」をテーマにしました。ここで紹介できるのは三島と富士山の関わりのごく一部です。今回の世界文化遺産登録をきっかけに、より多くの人に富士山の恵みを再認識していただけたらと思います。

○三嶋大社と富士山

三嶋大社の主神である大山祇命（おおやまづみのみこと）と、富士山本宮浅間大社や三島市の浅間神社の主神である木花開耶姫命（このはなさくやひめのみこと）は親子の関係であることから、三島と富士山もまた親子であるという伝説が生まれたようです。富士山の噴火の際には大山祇命に祈りをささげ、木花開耶姫命に噴火を鎮めるように頼んでもらったともいわれています。

○三嶋大社

古くより三嶋大社は伊豆の一の宮として信仰を集め、大山祇命、事代主命（ことしろぬしのみこと）の二柱を主神としています。三嶋大社の成立には伊豆諸島や伊豆半島の火山活動が密接に関係しているといわれ、平安時代に伊豆諸島が噴火と造山を繰り返した際には、「これは山の神である大山祇命の御業である」とされました。このため朝廷は、三嶋大社の神階を上げることで、大山祇命を鎮めようと努めました。

○浅間神社

楽寿園の正門南側にある三島の浅間神社は、三嶋大社に次ぐ伊豆の二の宮で、木花開耶姫命、波布比売命（はぶひめのみこと）の二柱を主神としています。このうち、大山祇命の娘である木花開耶姫命は噴火を始めた富士山に登り、これを鎮め人々を救ったという伝説があり、この伝説をもとに、富士山の噴火を鎮めるために木花開耶姫命を祭神として祀ったといわれています。なお浅間神社は、約1万年前の富士山の噴火の時、ここで溶岩の流れが止まったので、岩留浅間（いわどめせんげん）とも呼ばれています。境内には溶岩塚や縄状溶岩があり、その中に足跡のようなくぼみ



浅間神社

を持つ溶岩があります。このくぼみは、主神である木花開耶姫命が溶岩の流れを食い止めた際につけられたものといわれています。

鳥居をくぐった左側には、小浜池と同じように富士山からの雪解け水が湧く池があり、富士山に向かう人々はこの池で禊を行い、浅間神社に参拝・安全祈願してから登山していました。当時はここから富士登山道がはじまっていた。この道は富士山の表登山道として栄えた道として伝えられています。現在、浅間神社の境内にあった富士登山道はなくなってしまいましたが、一部が楽寿園正門西側に遊歩道として残されています。



溶岩塚にある
足形のようなくぼみ

○富士登山道開山式

富士登山道開山式は富士山への登山者を歓迎するとともに、登山者の安全祈願のため毎年7月1日に行われています。近年は三島市観光協会が主体となり、三島市と三島商工会議所の共催のもと、三島駅前広場（南口）で浅間神社氏子会婦人部による農兵節の奉納踊りなど、盛大に開催されています。



楽寿園正門西側にある
昔の富士登山道

○富士山に由来した三島の地名・町名

三島にある地名・町名は富士山に由来したものが多くあります。ここで紹介する以外にも富士山に由来した名称があるかもしれません。このような地名・町名からも富士山を身近に感じることができます。

泉町	富士山からの湧泉が多いことと、言葉の響きの良さから名付けられたといわれています。
佐野見晴台	富士山及び駿河湾が一望に見晴らせる高台にあることから名付けられたといわれています。
三恵台	富士山、箱根山、そして駿河湾の三つの素晴らしい眺望に恵まれた高台にあることから名付けられたといわれています。
玉川	富士山の清冽な雪解け水が流れる玉川池（丸池）を水源とする川の名からきています。
富田町	富士山の眺めがすばらしいことから、町名の頭に富士山の“富”を重ねて豊かで富んだ町になることを願って名付けられたといわれています。
富士ビレッジ	富士山を望めることからつけられ、昭和48年（1973年）当時全国で唯一のカタカナ町名として話題になりました。
富士見台 東富士見 西富士見	文字通り美しい富士山が見える町ということで付けられた町名といわれています。
芙蓉台	芙蓉峰は富士山の雅称（風流な呼び方）であり、富士山の眺めがすばらしいことから付けられたといわれています。

○三島から富士山を詠んだ句・短歌

霧しぐれ富士を見ぬ日ぞ面白き

松尾芭蕉

不二見えてあの世この世の若葉摘む

龍澤寺 中川宋淵老大師



三島から見る富士山は真ん中にある宝永火口が特徴的です



国道1号線沿いにある芭蕉の句碑

晴れてよし曇りてもよし富士の山
もとの姿は変わらざりけり

山岡鉄舟

富士山を間近に望み、また清らかな湧水に恵まれた三島は、俳人や歌人だけでなく、多くの作家や詩人にも愛された地です。富士山や湧水に触れた作品を片手に、街を歩いてみてはいかがでしょうか？

知っていますか？～三島市章の成り立ち～

昭和16年4月29日、三島町と錦田村が合併し、人口が3万人を超える、県下で6番目の都市、三島市が誕生しました。

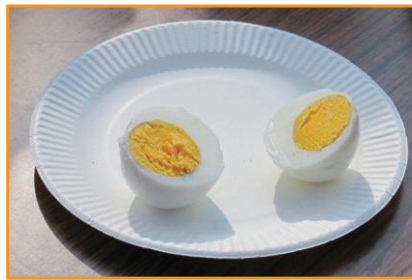
市章はその時制定されたもので、八角形の三嶋大社の紋章と富士山を組み合わせ、また中央の三線は三島を表す漢数字の「三」と、水の流れを組み合わせで図案化したものです。



北上えこくらぶ（北上地区エコリーダー）の活動紹介

北上えこくらぶは「ちょっぴりエコ、楽しくエコ」を合言葉に地域に根付いた環境活動を行っています。沢地川沿いの花壇作りや、北上文化プラザまつりへ参加、廃食用油での石けん作りといった環境講座などを行い、これらの活動を通して地域のみなさまにも「北上えこくらぶ」が少しずつ広まってきていると感じています。

昨年からは地域交流活動として小学校での環境に関する勉強のお手伝いも行っています。今年は佐野小学校、徳倉小学校で地球温暖化に関する環境学習講座を行い、沢地小学校では自然教室で野外活動のお手伝いをしました。



手作りソーラークッカーでゆで卵ができました。



沢地小学校自然教室の様子



北上えこくらぶでは今後の活動として、沢地川沿いの花壇に芝桜を植えて三島の新しい花の名所にしようと計画しています。一緒に植え付けを手伝っていただける方を募集していますので、環境政策課までご連絡ください。

皆さんも地域での環境活動に参加しませんか。お問い合わせは下記、環境政策課へ。

【編集後記】



生まれた時から当たり前のように見ることが出来る富士山。標高は「富士山のようにミナナロー(3776)」と覚えました。三島市の小中学校の校歌にも「富士」や「富士山」という言葉が入っています。地元を離れた時は、富士山の麓だと伝えると必ず理解してくれました。

富士山は地域のシンボルであり、生活をしていく上で、なくてはならない存在です。この度世界文化遺産となり、富士山は世界のシンボルとなりました。改めて、素晴らしい環境の街に生まれたことを実感する次第です。(あ)

編集スタッフ（市民ボランティア）

飯田喜一・岩田明彦・大村洋子・佐伯忠夫・柴原俊介
鈴木祥子・堀江紗代・川村結里子・青木博・羽田妙子

(広報みしまと一緒に掲載中)

第22号（5月・10月の年2回発行）

平成25年10月15日発行
〒411-8666 静岡県三島市中央町5-5

三島市役所中央町別館

環境政策課内

「エコライフみしま」編集事務局

TEL:055-983-2647

FAX:055-976-8728

E-mail:kankyoku@city.mishima.shizuoka.jp

再生紙を使用しています。
この再生紙も、さらに再生可能な資源古紙です。